

小学部六年A組

漢字はヒーローだ

西川 杏

私は、アメリカで英語を習って、バスケットボールも一年中がんばって、水泳、演劇、ガールスカウト、合唱、ダンス、生徒会長と様々な活動をしています。このようにそがしい生活の中で、補習校に通っています。その補習校で一番苦労していることは、漢字です。

漢字は昔、私の敵でした。私はずっと、漢字とはむだなもので意味がないものだと思っていました。私は、全部ひらがなで良いのではと思っていました。けれど、補習校の学習を続ける中で、私は分かったことがあります。もし、日本がひらがなだけを使うようになったら、意味が分からなくなってしまうということです。たまに、日本語には同じ音の言葉があります。例えば、「あつい」という言葉は、「厚い」であれば、本が厚い時に使われますが、「暑い」であれば、気温が暑い時に使われます。文章を書く時に漢字を使わなければ、何を言いたいのかがきちんと分からなくなります。つまり、漢字がなければ相手が何を言おうとしているのかがよく分かりません。また、漢字はパッと見るだけで意味が分かり、とても重要なものだと思ってきました。

漢字は、知らないうちに、みんなを助けてくれている、私たちの味方であるということです。だから、今年の六年生の一年間では、小学校の漢字を完ぺきにマスターしたいです。まだまだ遠い道のりです…。

視点のちがひ

富秋 水樹

「帰り道」は、主人公の律とその友達の間也の感情の変化を深く考えさせられる文章でした。僕はこの「帰り道」を読み、気づいた点があるので、しようかいいたいと思います。

まず僕が一つ目に気づいた点は、律がイメージする間也と現実とのちがひです。律からの視点では、間也はどんな話題にもついていけて、なんでもテンポよくこなす、律にとって見上げるような存在でした。でも、実際の間也はあまり会話がうまくなくて、会話のキャッチボールができません。相手に一方的に話しかけてしまうので、まるで一人でピンポンの壁打ちをしているようだと、間也のお母さんが注意するほどでした。この二つのちがひは大きくて、二人の視点がちがったということが分かります。

もう一つ僕が気づいたのは、間也から見た律と、現実の律のちがひです。周也から見た律は、落ち着いていて、冷静な人です。しかし実際の律はというと、テンポよくどちらが好きかを答えていくゲームで、「どっちかな」とか「どっちも好きかも」と、はっきり決めることに苦労しているような、テンポの悪い人でした。そんな律に間也はイライラして、「どっちも好きってのは、どっちも好きじゃないのと、いっしょじゃないの」と言いました。それを言われた律は、「先のとがったするどいものが、みぞおちの辺りにずきつとささった」ように、心が傷ついてしまします。

このように「帰り道」では、さまざまな視点から書かれていることが分かります。僕はこの物語を読み、人はそれぞれ異なる見方をしていくことがあるということを知りました。

「帰り道」の感想文

樋口 敦裕

律と周也は仲の良い友達でした。律と周也は小四の時からよく登下校していました。律は周也よりも落ち着いていて、マイペースな人です。周也は律のマイペースさがいいと思っていました。ぼくもあまりマイペースにできないので、少し共感しました。でも、ある日の昼休みに律が「どちらが好き」と言った時に、周也が「どっちも好きなのは、どっちも好きじゃないのと、いつしよじゃないの」と言っていました。そこで周也と律の気持ちがすれちがってしまいました。

市内公園の遊歩道で、律は周也に三歩くらいおくれを取っていました。天気が降った時、二人はとも笑っていました。その時に、律はどちらも好きの意味を分かってもらえた気がしていました。その後、律のなやみが一つ減りました。でも、周也は他の人と静かな場所にいるのが苦手だったので少し気まづくなっていたと思います。周也は母から会話はキャッチボールのようなもので、周也はボールを投げつけているだけと言われていました。周也はしめった土のおいがただようトンネルでボールを投げそこなっただけでも、律のボールを初めてしっかりと受け止められたのかもしれないと思いました。

僕は「帰り道」を読んで、他の人の言葉を受け止める大切さを知りました。これから、他の人の言葉を受け止めようと思いました。

「時計の時間と心の時間」を読んで

益田 真歩

ぼくは、「時計の時間と心の時間」を読んで、『今していることをどう感じているかによって、体感時間が異なるということ』と、『人によって、さまざまなことのペースが異なるということ』にとても共感しました。

まず、今していることをどう感じているかによって、体感時間が異なることについてです。たとえば、ゲームや宿題など集中している時は時間がとても短く感じます。逆につまらないこと、たとえば作文を書いている時や大そうじの時などは、とても時間の進みがおそく感じます。筆者は、集中している時と時間を気にする回数が減って、時間があつという間に過ぎ、苦手なことをしていると集中しなくなるので長く感じてしまうという説明をしています。それを読んで、「確かに集中している時は時間をそこまで気にしない」と思いました。

二つ目は、人によって、さまざまなことのペースが異なるということです。ぼくは、たまに歩くペースが速いと言われることがあります。しかし自分では全く自覚がなく、なぜだろうと思っていました。この説明文の第六段落の実験で、自分にとって心地よいテンポが速いものだと知りました。そしてこのテンポは、歩く速度や会話の取り方などの活動のペースと関わりがあることも知りました。

ぼくは、「時計の時間と心の時間」を読んで、心の時間というものを知ることができてよかったと思いました。これからは歩く速度や会話の間の取り方がう人がいても、「自分と心地よいテンポがちがうんだな」と、相手の事を尊重しようと思います。

夏休みの思い出

赤池 航

六月から七月の一月間、日本に一時帰国しました。日本ではおばあちゃんの家にとまらせてもらいました。

毎年日本に帰ったら、もともと通っていた小学校に、電車で一時間ほどかけて通いました。最初の日は、わくわくもありながら、きんちようしていました。学校の教室に入ったら、仲が良かった友達が集まってくれて、五年生の時と全然変わっていないようで、すぐなじめました。

そしてすぐに時はたつてしまい、おわかれまで二週間ほどのところまで来てしまいました。みんなは、

「修学旅行楽しみー」

と言っていました。もちろんぼくは一年に一月しか学校には行っていないため、修学旅行はいけなしかと思っていました。ところが先生は、

「赤池くんも修学旅行にいけるよ」

と言ってくれてみんな大喜びでした。

そして修学旅行準備を終えて、修学旅行に行く日になりました。いくところは、広島、原爆ドーム、宮島、厳島（いつくしま）神社、あと水族館。

新幹線に乗り、広島まで行きました。新幹線は、すごく速くて、全くゆれがなかったです。広島に着いたらまず、平和記念公園で原爆がどれほどおそろしいものなのかを真げんに学び、平和記念資料館も見ってきました。そのあと、その公園にあるほかの建物を見て回りました。一日が終わってホテルで友達と一緒にねました。次の日、小さなフェリーで宮島まで十五分ほどかけて行きました。厳島神社はすごくきれいで感動しました。水族館にも行き、おみじまんじゅうも食べました。

修学旅行から帰ってきて数日後、お別れの会をしました。中学受験をしてほかの学校に行ってしまう、もう会えない友達もいるので悲しく

なりました。友達とはもう会えないかもしれないけれど、この一月間は一生忘れない思い出になりました。

卒業旅行

関 華乃

卒業旅行にワシントンDCに行きました。子供三十六人、大人が十九人、全員で五十五人でした。

飛行機に乗って、学校のお友達といっしょに旅行するのは初めてだったので、少しだけドキドキワクワクしました。

一番楽しかった事は、スパイミュージアムに行った事です。スパイミュージアムでは、スパイになるふりをしました。自分のコードネームとミッションをもらいました。ミッションをこなすには、もらったヒントと見た事やわかっている事を、パズルのようにつなげなくてはなりません。昔のスパイが使った道具の中から、どの道具を使えばいいか、自分で答えを出さないとけませんでした。私は、スパイになるのは難しいと思いました。

ホテルには、室内に大きなウォータースライダーや、流れるプールがありました。私は、夜にプールに入りました。プールには、うき輪が置いてあり、その上を水に落ちないように渡るアトラクションがあり、私はそのアトラクションが一番楽しかったと思いました。

五年生の最後に、みんなで旅行に行き、いい思い出を作ることができました。お友達とワイワイしたり、いっしょにご飯を食べたり、とてもいい経験になりました。

私のブックトークのテーマは「どうぶつ」で、三冊の本をしようかします。

一冊目は「どうぶつびょういん」です。このどうぶつびょういんは動物のための病院ではなく、子どもたちのために動物たちがその子の悪いところをなおすための病院です。体の悪いところをなおすのではなく、心や態度などです。この本を読んで、自分の悪いところが、でてる子どもたちと同じところがありました。そして、その動物たちが子どもたちに教えることを意識しながら生活すると、前よりその悪いところがなおって、自分もその子といっしょに学んだ気持ちにしてくれる本です。

二冊目は「とにかくかわいいいきもの図鑑」です。フェアリーペンギンは大人になっても赤ちゃんにまちがわれることや、ユキヒヨウはびつくりするとしっぽをくわえることを知っていますか？この本ではたくさんのいきものが書いてあり、読んでいて楽しくて、新しいいきものを好きにさせてくれる本です。たくさんの絵があつてもいろいろ、何回読んであきないの、ひまな時や気持ちが落ち着かない時に読むのにぴったりな本です。

三冊目は「うさほん」です。この本はマンガで学べて、質問、答え、説明の四つが書かれています。絵がかわいいし、分かりやすく説明していて、かんとんに楽しく学べて、もつとうさぎのことを好きにさせてくれる本です。

この三冊はとても読みやすく、楽しい本です。この中で気になる本があつたらぜひ読んでみてください。

私の大事なものは、大好きな友達といっしょに買ったマットなリップです。なぜかという、とても大切な思い出がつまっているからです。

夏休みに、私は大好きな友達のましろちゃんの家にお泊り会をしに行きました。ましろちゃんとは、補習校で友達になった、美意識が高く、面白い友達です。五年生の冬休みにましろちゃんが日本へ帰ると知った時はとても悲しかったけれど、ましろちゃんが引越すときにいつかおとまり会をしよう、という約束をしました。そして私達は引越したあとも連らくを取り合っていました。何度もお母さん達にお願いをして、夏休みにおとまり会が実現しました。久しぶりに会うのが楽しみで何日も前からわくわく興奮していました。おとまり会に持っていくものも念入りに準備しました。

私達は、原宿駅で待ち合わせをしました。ラブブという人形が欲しかったので、それを買いにポップマートというお店に行きました。ラブブとは、大きくてくりくりした目とギザギザな歯、雲のようにふわふわした毛並みが愛らしい人形です。お店の前には長い行列が出来ていて、入るのに一時間以上かかりました。それなのに、店内にラブブはありませんでした。残念でした。

それからいっしょに「rom&nd」というコスメ屋さんに行きました。私はメイクにはあまりくわしくなくて少し不安でしたが、お店を二人で回りながら、メイクにくわいしましろちゃんはコスメの説明してくれました。二人で一時間程回ってやっと私は一つリップを買いました。家に帰って二人でその日買ったものを開ふうしながら、おかしを食べているときも、本当に楽しかったです。

私は今でも毎朝そのリップを使っています。私は、思い出がこもっている物はずごく大事な物になると気づきました。これからも、その思い出を思い出しながら、そのリップを使いたいです。

私の大事な人たち

岸川 菜美

私にとって大事な人たちは、友達です。友達がそばにいてくれると、心が元気になり、毎日がとても楽しくなるからです。友達と話したり、いっしょに遊んだりするだけで、いやな気持ちがなくなっていくます。また、私が悲しい気持ちになった時には、友達が「大丈夫だよ」と声をかけてくれたり、はげましてくれたりします。友達の言葉は、心の中に光がさしたように、私を元気にしてくれます。だから私は、友達の存在がとても大事だと思っています。

私は一年七ヶ月前にアメリカへ引っこしてきました。はじめのころは、アメリカの生活に慣れるまで時間がかかり、分からないことも多く、とても大変でした。日本にいた時のように気軽に話せる友達もいなかったのです、さびしい気持ちになることもありました。そんな時、日本にいる親友と連らくをとったり、日本語補習校の友達と話したりすることで、心が少し楽になりました。日本語で話せる友達がいるだけで、またがんばろうと思えるようになりました。

アメリカの学校に少しずつ慣れてくると、現地校の友達もできました。英語で話すのは難しい時もありましたが、友達がゆっくり話してくれたり、分からないことを教えてくれたりして、学校での時間がどんどん楽しくなりました。

今年の夏、私は一時帰国して、前に通っていた日本の学校に一週間だけ行きました。久しぶりに会う友達と、また仲良くできるか少し心配でした。でも学校に入ったとたん、なつかしい友達が「久しぶり」と声をかけてくれて、とても安心しました。親友とも毎朝いっしょに通学して、前と同じ日々がもどってきたようでした。その一週間で新しい友達もできて、とても楽しい時間になりました。本当にあつという間でもっと日本の学校にいたいと思っただけです。

この夏の体験を通して、私はあらためて友達がいることは、自分にと

ってとても大事なんだと気がつきました。これからも、いろいろな場所でたくさんの友達を作りたいし、今いる友達も大切にしていきたいと思えます。そして大人になったら、友達といろいろな所へ出かけて、思い出をたくさん作りたいです。

わたしのいちばん大切なもの

中込 春乃

みなさんは、今いちばん大事なものは何かと聞かれたら何と答えますか？私が今、いちばん大切にしているのは、「ごはんをおいしく食べられる環きよう」です。理由は二つあります。

まず一つ目の理由は、みんなで食べる方が、一人で食べる時よりもおいしく感じるからです。家族や友達とお話すると、ごはんがもっと好きになります。

二つ目の理由は、ごはんのありがたみを感じられるからです。今も世界では、多くの人が貧困に苦しんでいます。ごはんを食べられるのがあたり前ではないからこそ、私はこの環きようが大切だと感じます。

私がこの環きようの大切さに気がついた体験がありました。それは、ある夜、いつものようにごはんを食べていた時のことです。ふとニュースが目に入って、はっとしました。なぜなら、貧困という大きな文字の下に、骨がうかびあがるほどやせ細った子供たちが映っていたからです。その時に私は、ごはんをおいしく食べられる環きようがどれだけ大切かを知りました。

このようなことから、私はごはんをおいしく食べられる環きようがいちばん大事だと思います。そして、これからもこの環きように感謝したいです。みなさんも、当たり前だと思っっている一つ一つに目を向けてみてください。

佐々木 唯豊

私は「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を読んで、「やまなし」がとても深い物語だと思いました。最初私が「やまなし」を読んだときは、私は不思議だなと思っただけでした。ですが「イーハトーヴの夢」を読んでみると、ふと「やまなし」の果物の方のやまなしは「死」を表していると思いました。そしてそこから、死や苦しみは楽しみを見つめるため必要なのではないかと考えました。

なぜそう思ったかと言うと、「イーハトーヴの夢」の中で「苦しい農作業中に、楽しさを見つめる。工夫することに、喜びを見つめる。そうして、未来に希望をもつ。」と言う賢治の理想からそう考えたからです。特に「苦しい中に楽しさを見つめる」と言う所について考えてみました。苦しいと言うのは「やまなし」の死、「その中に楽しさを見つめる」と言うのは「やまなし」の作中に出てきたカニたちの楽しさやうれしさを表していると思いました。そうすると賢治の理想が「やまなし」に入っているとと思いました。

この「やまなし」と「イーハトーヴの夢」では、賢治は苦しさをどうやって楽しさにするかを工夫することで、みんなを楽しくさせたいというのを伝えたかったと思いました。私は、何かの楽しみには苦しみがともなうと思いました。「やまなし」では、カニたちにはやまなしを食べられることを楽しみにしていました。やまなしは食べられたいわけでもなく、ただただ落ちて死んでしまったからです。こうして賢治の理想をみんなに気づいてもらいたいから、賢治は「やまなし」という作品を書いたと思いました。

ラングハム 紅葉

私は「やまなし」を読みました。「やまなし」は最初に二ひきのカニがクラムボンとかわせみの話をします。十二月になると二ひきのカニは大きくなって、やまなしが落ちます。カニたちはかわせみだと思ってこわがりますが、お父さんがやまなしだと言って安心してと言います。私はこの物語の伝えたいことは、食物連鎖（れんさ）だと思います。なぜかというと、最初は落ちるやまなしが死んだあと、カニの食料になり、また新しいやまなしが木から落ちるとカニの食料になるというくり返しがあるからです。それにクラムボンはかわせみに食べられて、もう一匹クラムボンが泳いでいると、かわせみに食べられるくり返しもあります。

この物語の十二月にカニが大きくなったと書いてありますが、弟がまたあわ対決している時にくやくして泣きそうになるのがかわいいと思いました。なぜかというと、弟がお兄さんと泡対決をしていて、お兄さんの方がまたあわを大きくはきました。弟は大きくなったから勝てると思ったのに、あわが小さくてくやくして、泣きそうになっているからです。

「やまなし」の最初の方に二ひきのカニがクラムボンのことを話していて、悲しかったです。なぜかというと、最初はクラムボンはプカプカとういていてうれしかったのに、次にクラムボンが死んで殺されたことになるからです。

「やまなし」は悲しい気持ちやうれしい気持ちになったから、すごく考えないといけない物語でした。初めは理解するのがむずかしかったけど、授業で深く物語の内容を勉強したら、食物連鎖（れんさ）の意味も分かったし、全部の生き物がそのサイクルに入っているんだなと思いました。

「やまなし」の感想文

和歌森 菜々子

宮沢賢治が書いた「やまなし」では、作者が作り上げた言葉や表現が入っていて、不思議な物語だと思いました。「イーハトーヴの夢」を読んで、賢治の日常や思いがどうやまなしにつながっているのが良く分かりました。

その一つは、賢治が苦しい農作業に、楽しさを見つけて、工夫することに喜びを見つけた。「やまなし」では、カワセミが来ておびえているカニたちにやまなしが落ちてきて、喜びを見つけたところです。これは賢治が農作業をしているときに言ったことと同じです。賢治は植物と人間と動物への思いは全て同じくらい大切で、これら三つは全て生きていると書いていました。やまなしもカワセミも、クラムボンも命があるとしたら、やまなしが川に落ちた時、賢治が人を助けたように、やまなしはカニたちに楽しさを与えたのかもしれません。これらすべてが、「苦しみに楽しさを見つける。」という賢治の考えにつながっています。

二つ目は、五月と十二月に起きた出来事と賢治の理想の世界と現実が強く関わっていることです。まず五月では、自然で起こるおそろしい出来事をカニたちは見ました。カワセミがクラムボンを殺したときです。そして十二月には、自然の楽しさ、やまなしが出てきました。賢治の生きていた世の中では、賢治の理想とは真逆の方向に進んでいました。これは自然と人のおそろしさを表しています。この「やまなし」の場面と賢治の生きていた世界がとても似ています。

宮沢賢治が書いた「やまなし」と、賢治の日々が書かれている「イーハトーヴの夢」では、大きくつながっている場面がたくさんあります。私はそのうち二つを選び、どちらも賢治の思いや生活と大きく関わっていました。私はこれからもっと賢治の作品を読み、彼の考えや思いを理解したいと思います。

今年の運動会

木村 美結

私がヒューストンに来て初めての運動会が、補習校で行われました。記念すべき一回目は、紅組の勝利でした。とてもうれしかったです。

「目ざせ、ロサンゼルス！」では最終レースだったので、みんなの動きやルールを見直せる時間がありました。でも、いざ自分がレーンに立つて「よいドン！」と言われると、とてもきん張して頭が真っ白になりました。とにかく高校生がいるところまで走りました。棒をまわる時に、自分では三回まわったと思い次の障害物に行こうとすると、高校生が「もう一回」と教えてくれました。次の縄とびに入る前は三位だったけれども、得意の縄とびで逆転して一位になり、そのままゴールに行きました。一位になれてとてもうれしかったです。

つな引きでは、紅組が二連勝しました。私はつな引きで重要な場所、一番後ろにいました。後ろだったので、前があまり見えませんでした。リズムに合わせて引つ張るとつながより引けました。一生けん命つなを引っ張ったので、終わった後は手が赤くなり少し痛かったです。

その他の学年の競技で一番印象に残ったのは、やはりリレーです。高学年のリレーでは追い上げたり、逆転したりと大波乱で見ていてドキドキしました。中・高等部のリレーでは、第一走者からデッドヒートがくりひろげられ、追い上げたりはなされたりしてはく力がとても感じられ、見ていてワクワクしました。そのとき応援席では、紅組のみなが一丸となつて、リレー選手を応援していました。

私はリレー選手の補欠だったので、本番の競技には出ることができませんでした。だから少しくやしい気持ちでした。来年こそはリレー選手になつて、中・高等部の先ばい達といっしょに競技に出て戦えたらいいなと思っています。

宇宙に向かって努力し続ける

栗林 佳蓮

大西宇宙飛行士のお話を聞いて、宇宙での生活は、地球との生活と全然ちがうと知りました。

無重力でのくらしは、食事も、トイレも、お風呂も、歯みがきも、寝るのも全然ちがって、私たちが地上で当たり前の様にやっていることがこんなにも大変だということが分かりました。そして、宇宙ステーションは秒速八キロ、一日に地球を十六回も回ると聞いて、とても速いなおどろきしました。

宇宙飛行士になるためには、たくさんの方の努力や決意、がまんが必要だと分かり、とても尊敬し、見習おうと思いました。私も夢に向かって努力し、何事にもちよう戦しようと思います。

冬休みの思い出

河田 桐和

僕は、冬休みに日本に帰りました。だけど、冬休み前に帰るので、現地でテストを早めにたくさんやりました。そして、次の日に空港に行きました。日本では、三週間ほどおとまりをしました。父の実家が建てかえ中だったので、ホテルでとまることになりました。

日本の羽田空港に着いてまず最初にしたことは、コンビニに行ってきたくさんお菓子を買うことです。久しぶりの日本のおかしは、とても美味しかったです。そのあとは、湯河原温泉に、祖母とおじと家族でいっしょに行きました。温泉は、すごく気持ちよかったです。一番びっくりし

たことは、コーヒー牛乳が、そこには売っていなかったことです。その次に、熱海の温泉にとまってから、父の故郷の静岡へ帰りました。

静岡では二年も会えていない友達に会いに行きました。さらに、妹といっしょにそのお友達の家でおとまりをしました。いっしょにたくさんゲームを遊びました。それで、夜中にばれないように、二人でスマホゲームをしていました。二〇二六年のカウントダウンも寝ないで、いっしょに過ごしました。

日本にたい在中、岐阜の高山にも行きました。今回は母がわの祖母、そう祖母、姉と僕の従妹のまきちゃんといっしょでした。高速を車で走って、いくつか山を越えると、雪が降り始めてだんだんと雪景色になっていきました。高山のホテルには高山温泉のお湯と下呂（げろ）温泉のお湯がありました。下呂温泉のほうが高山のお湯よりぬるぬるです。べでした。僕には妹が二人いるのですが、僕のすぐ下の妹が従妹のまきちゃんがたくさん遊んでいたの、一番年下の妹がしつとしておこりました。かわいかったです。

僕は日本に長くいなかったけれど、たくさん遊びました。久しぶりの日本は全然悪くないと思いました。